

科目区分・分類	一般・講義	対象学科名・学年	両専攻 1年	科目コード	77911200
科目名	日本文学特論 Selected topics in Japanese Literature				
担当教員	小池 博明				
単位数(時間数)	選必 前期 2単位 (30時間)【学修単位】	学習・教育目標との対応	(A-1)		
授業の目的と概要	正岡子規が短歌の革新を行うまで、和歌の規範であり、我が国の美意識の基にもなってきた、『古今和歌集』の表現について、『万葉集』『新古今和歌集』を視野に入れながら講義する。また、学生の国語表現の力を育成するために、学生自身の研究について、一般人でもわかるようにスピーチを行う。				
先修科目					
後修科目					
備考	選択科目であるから、古典の表現に興味関心のある学生が受講していることを前提とした講義となる。古典文法についての言及がかなり多くなる。本科で使用した国語便覧、古典文法の教材、古語辞書も必ず持参すること。				
	授業項目	時間	内容		
1	・ガイダンス ・スピーチの仕方	2	・本科目の目的や概要などについて理解できる。 ・多くの人を相手に話す際、自らの意見を効果的に伝えるために留意する点について理解できる。		
2	スピーチの原稿作成	2	自らの研究について、専門外の人でもわかるように、図表などを用いながら、3分間でまとまったスピーチができる原稿を書くことができる。		
3	3分間スピーチ	2	・自らの研究について、多くの人を前に、適切な表現でスピーチをすることができる。 ・他者の話を理解し、意見を述べることができる。		
4	3分間スピーチ ・相互評価	2	・同上 ・他者のスピーチについて、客観的に評価するとともに、建設的な助言ができる。		
5	和歌文学と日本文化	4	和歌が日本の文化と密接に関係していることが理解できる		
6	和歌の文字・表記と表現	2	『万葉集』と『古今集』に使用された文字の相違が、『古今集』の表現に影響を与えたことが理解できる。		
7	物名	2	前の時間を踏まえて、『古今集』の「物名」巻の成立に、仮名文字が不可欠だったことが理解できる。		
8	『古今集』の修辞	2	『古今集』の表現を掛詞から理解できる。		
9	『古今集』の修辞	2	『古今集』の表現を縁語から理解できる。		
10	『古今集』の歌ことば	2	『古今集』の表現を歌ことば(地名)から理解できる。		
11	『古今集』の歌ことば	2	『古今集』の表現を歌ことば(地名以外の名詞)から理解できる。		
12	『万葉集』『古今集』『新古今集』の構文の特徴	2	いわゆる三大歌集の表現の違いの1つは、構文の相違によることが理解できる。		
13	『古今集』の構文	2	『古今集』の表現を題述構文から理解できる。		
14	『古今集』の構文	2	『古今集』の構文を「らむ」構文から理解できる。		
前期期末試験					
学習・教育目標を達成するために身に付けるべき内容	・古典和歌に関して、大学の一般教養程度の知識と自らの考えや感想などを説明できること、また、自らの研究について一般人でもおおよそ分かるように説明することができて、学習・教育目標(A-1)の達成とする。				
成績評価	筆記試験(80%)・3分間スピーチ(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。				
教材	教科書:小町谷照彦『ちくま学芸文庫 古今和歌集』(筑摩書房)、参考書:本科で使用した国語便覧・古典文法の教材、古語辞書。なお、適宜プリントを配布する。				
オフィスアワー	放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3階。この時間にとらわれず必要に応じて来室可。				